

県産材を利用した床組の性能評価

小玉泰義

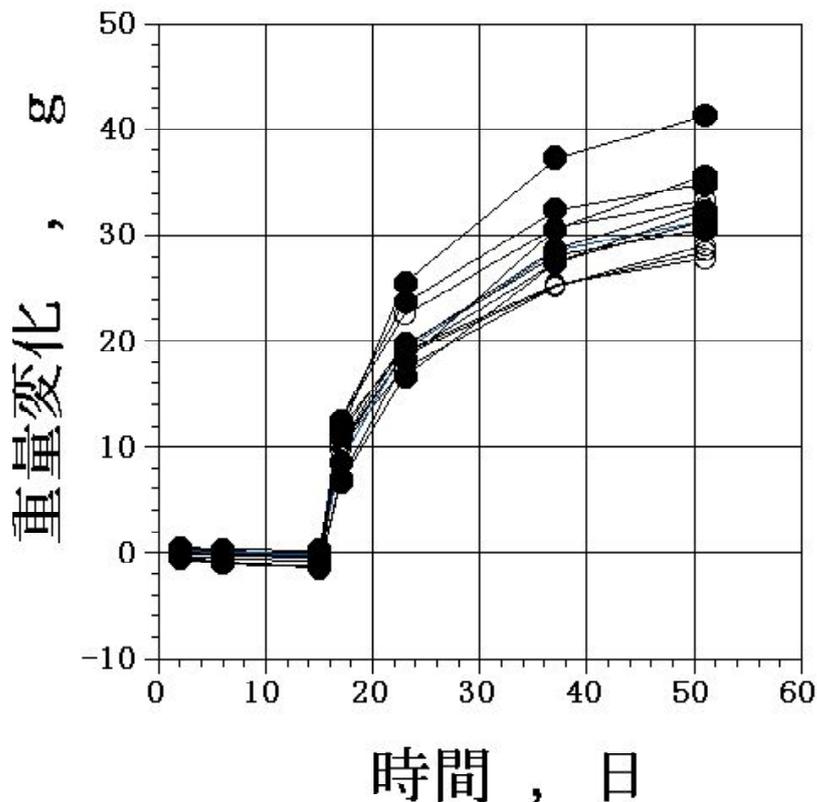
1. はじめに

県産針葉樹材の構造用面材への利用を目指して、スギ幅はぎパネルの開発を行ってきた。その中で、壁体の面内せん断試験を実施した。昨年度は、施行令第46条第4項表1に基づく木造軸組耐力壁の試験方法に準じたスギ幅はぎパネルの面内せん断試験を行った。今年度は、スギ幅はぎパネルの寸法安定性を向上させるため表面の圧密化試験をおこなった。

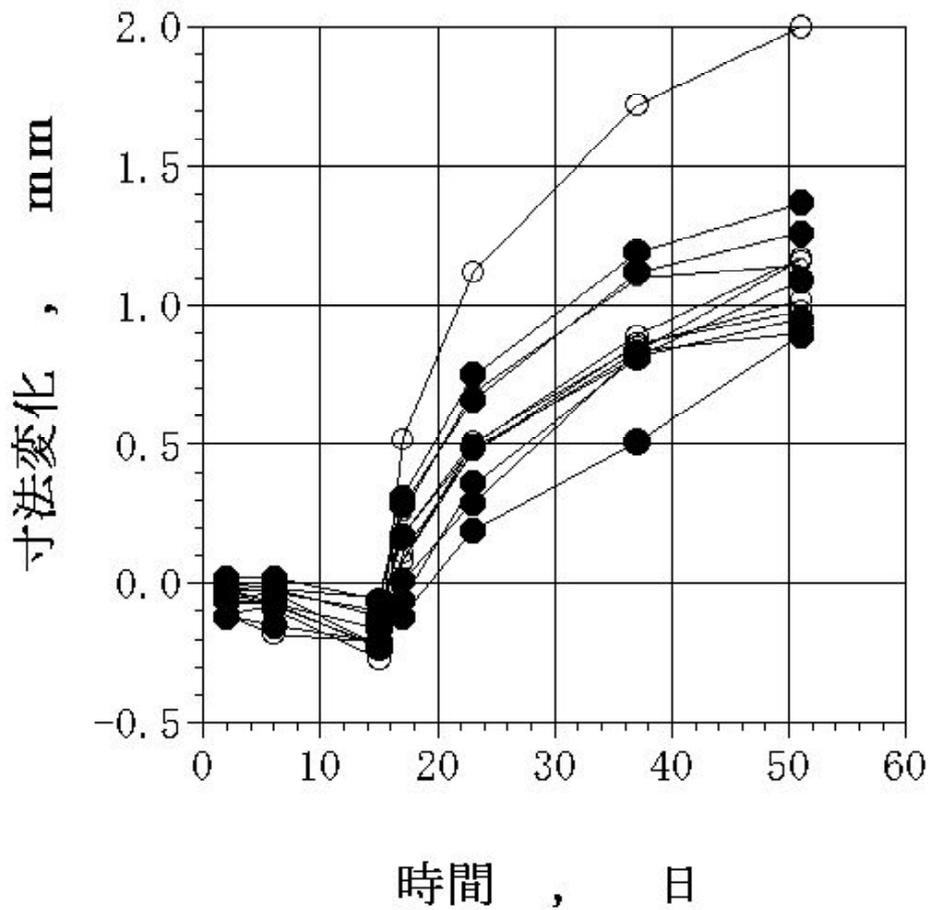
2. 方法

幅15cm、厚さ3cm、長さ（L方向）40cmの床板用スギ板材を用いた。

試験体を150℃、10分間、圧縮圧力10kg/cm²の条件で熱圧し、表面を圧密化した。熱圧後の試験体は、重量がほぼ一定になるまで大気中に放置した。



第1図 試験体の重量変化



第2図 試験体の幅方向（接線方向）の寸法変化

試験体を、温度が20℃一定で45%RHの湿度条件中に15日間放置した後、88%RHの湿度条件に移して37日間放置した。その間の試験体の重量変化と寸法変化を測定した。

3. 結果

第1図に試験体の重量変化を示す。第2図に 試験体の幅方向（接線方向）の寸法変化を示す。図中で、○は無処理を、●は熱圧処理を施した試験体を示している。熱処理を施した試験体の方が重量変化が大きい傾向にあるにも係わらず、寸法変化は無処理の試験体の方が大きい傾向にある。処理効果は大きくないものの、熱圧処理して表面を圧密化したスギ板材には湿度変化に伴う寸法変化を抑制する効果が期待できる。